

大阪・上津島遺跡

に暗緑灰色粘土の堆積があり、木簡はその直上から植物遺体に混じつて瓦器皿などとともに出土した。共伴遺物より一三世紀前半頃の所産と考えられる。

所在地 大阪府豊中市上津島三丁目

2 調査期間 第五次調査 一九九三年（平5）三月～六月

3 発掘機関 上津島遺跡調査団・豊中市教育委員会

4 調査担当者 服部聰志

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代中期・一一世紀～一二世紀

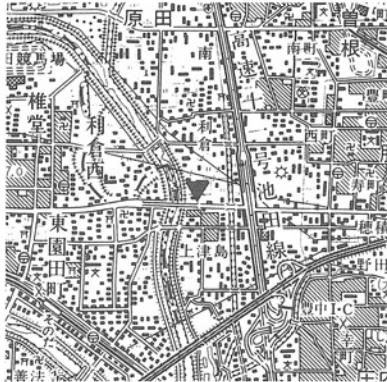
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地点は遺跡エリアの西端に位置する。周辺での試掘所見から、遺跡東部とは別の微高地上に立地するとみられる。遺構は古墳時代中期と一一～一二世紀の集落、中世集落直前の水田遺構がある。

木簡が出土したのは、中

世集落に伴う素掘り井戸とみられる土坑である。全体

の約一分の一程度が調査対象となり、南北一・二五m深さ約七〇cmを測る。底部



(大阪西北部)

8 木簡の篆文・内容

(1)

「□ □物忌昔蘇民将来之子孫〔宅カ〕門也急々如律令」
759×51×8 051

上端は圭頭、下端は漸次幅を減じながら先を尖らせる。表面の風化が著しく文字は判読し難いが、一部はレリーフ状に浮き出ている。

9 関係文献

上津島遺跡調査団・豊中市教育委員会『上津島遺跡第五次発掘調査報告』（一九九七年）

（服部聰志）

